

2023 年度年次報告書
AIP 加速課題
2022 年度採択研究代表者

太田 裕貴

横浜国立大学 大学院工学研究院
准教授

機械学習によるストレッチャブルスマートデバイスへの展開

主たる共同研究者：
栗林 健太郎（GMOペパボ(株) ペパボ研究所 取締役 CTO）

研究成果の概要

本事業2年目として、デバイスの構築方法の基盤技術を確立した。ウェアラブル手話検出システムに関しては、ほぼ完成した。今後さらに、検討を進めて、目標の word 数を達成したいと考えている。ウェアラブル無声言語検出システムに関しては、安定的にデバイス構築が可能となった。現在、特徴点の一部が抽出できている。このようにデバイス加工方法を改善し、ストレッチャブルデバイスにデジタル解析ができるように、システム構築を行なった。伸縮配線と固体電子素子を連結させる構造を基礎にデジタル化までを行えるプラットフォームを実現した。ウェアラブル手話検出システム、ウェアラブル無声言語検出システムともに、今後さらに言語数を増やすとともに、その他のアプリケーションの可能性を探る。これはストレッチャブルデバイス開発の要素技術の発展に寄与するものである。

【代表的な原著論文情報】

- 1) 該当なし